

取扱説明書

FV-101DM

八重洲無線株式会社

このたびは YAESU FV-101DM VFO をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもない、破損またはご不審な個所がございましたら、お早めにお買い上げいただきましたお店またはもよりの当社営業所サービスにお申しつけください。

●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがありますと、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合は保証期間中でも有償扱いにさせていただきますのでご注意ください。

●アフターサービス

万一故障のときはお買い上げいただきました販売店、もよりの営業所サービスまでご連絡ください。営業所サービスステーションの所在地、電話番号はこのページ下に記載してあります。

①保証期間はお買い上げの日より1カ年です。くわしくは添付してある保証書をご覧ください。

②保証期間をすぎた修理の場合、部品代の他に規定の技術料をいただきます。

③不良部品を交換のため、部品だけをご希望になる場合には、お買い上げの販売店にお申し込みになるか、もよりの営業所サービスステーションまでお申し込みください。郵送をご希望のかたは現金書留をご利用ください。品物だけ先にお送りすることはできませんので、あらかじめご了承ください。

④なお保証書に添付の保証依頼書はなるべくお早めに当社へお送りください。

製品の改良のために、取扱説明書の写真などが一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

このセットについて、または、ほかの当社製品についてのお問い合わせは、お近くのサービスステーション宛にお願い致します。またその節はかならずセットの番号（シャーシー背面にはってある名板および保証書に記入してあります）をあわせてお知らせください。なお、お手紙をいただくときは、あなたのご住所、ご氏名は忘れずお書きください。

八 重 洲 無 線 株 式 会 社

本 社 東京都中央区八重洲1丁目7番7号 〒103

東京工場／営業部 東京都大田区下丸子1丁目20番2号 〒146 ☎03 (759) 7111

名古屋営業所／サービス 名古屋市南区北頭町4丁目107番地 〒457 ☎052(612) 9861

大阪営業所／サービス 大阪市浪速区下寺2丁目6番13号 五十嵐ビル4F 〒556 ☎06 (643) 5549

広島営業所／サービス 広島市中区銀山町2番6号 松本ビル5F 〒730 ☎0822(49) 3334

福岡営業所／サービス 福岡市博多区古門戸町8番8号 吉村ビル 〒812 ☎092(271) 2371

須賀川営業所／サービス 福島県須賀川市森宿字ウツロ田43 〒962 ☎02487(6) 1161

札幌営業所／サービス 札幌市中央区大通り東4丁目4番地24号 三栄ビル6F 〒060 ☎011(241) 3728

FT-101ZDシリーズ用デジタルメモリーVFO

FV-101DM



※
FV-101DMは、FT-101ZDシリーズの外部VFOで、10Hzステップの2重ループPLL方式で、自動周波数変化量切り換え式TUNING KNOB、2スピードでシフトできるUP/DWNキー、バンド内の周波数を直接入力できるキーボード、及び±5kHz、±20kHzシフトキーで周波数を制御できます。

さらに、FV-101DMには、書き換え可能な12チャンネルのメモリ回路があり、キーボードあるいは親機の内蔵VFOにより選択した周波数をメモリできます。

特にメモリチャンネル中9～12の4チャンネルは、消去防止回路が付いていますので、誤って、すでにメモリされている周波数をクリアするのを防ぐことができます。

メモリ周波数による運用は、送受信ともメモリ周波数によることはもちろん、メモリシフト機能により、メモリされている周波数を書き換えることなく、運用周波数を可変することができます。

また、送信（あるいは受信）はメモリ周波数で、受信（あるいは送信）はTUNING KNOB、キーボードなどで周波数を制御する、いわゆるたすきがけ運用が行なえ、さらに親機の内蔵VFOとの組み合わせで各種のたすきがけ運用が可能です。

FV-101DMのTUNING KNOBはキー操作により、クラリファイアツマミに変わり、VFO、メモリチャンネル、メモリシフトによって選択した周波数を受信時のみバンド内を10Hzステップでエンドレスに可変することができます。

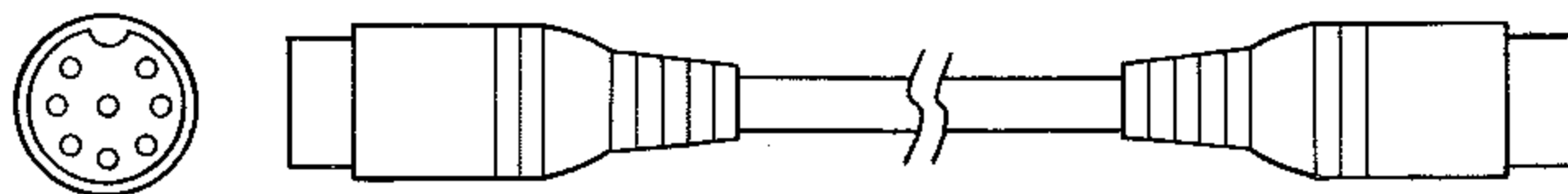
このように各種の機能をもつFV-101DMを組み合わせることにより、FT-101ZDシリーズのトランシーバは、さらに高度な運用が可能になります。

ご使用いただく前に、この取扱説明書を良くお読みいただき正しい操作でアマチュア無線をお楽しみください。

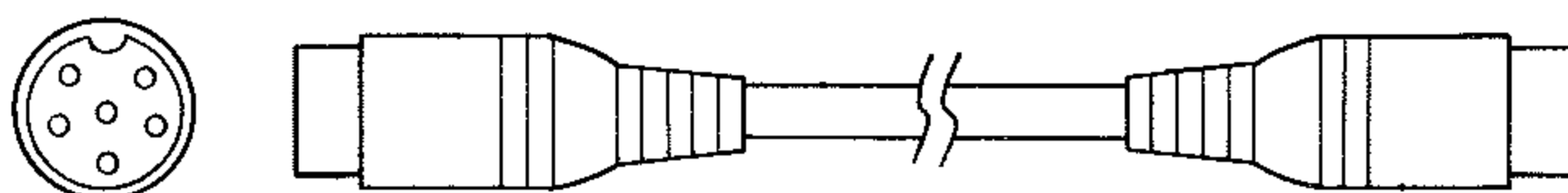
※FV-101DMはFT-101ZDシリーズのセット番号下6桁が××240001以降のFMユニットが組み込め、背面にEXT VFO A, EXT VFO B 2個の外部VFOコネクタの付いているセットに限ります。

付 属 品

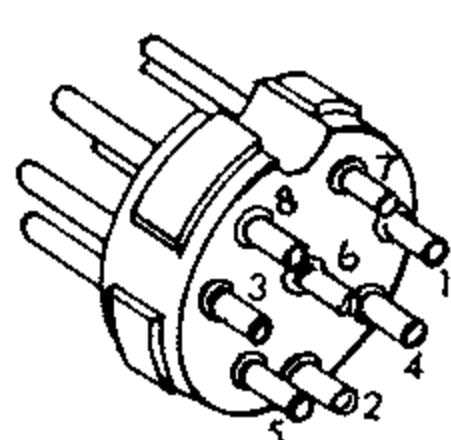
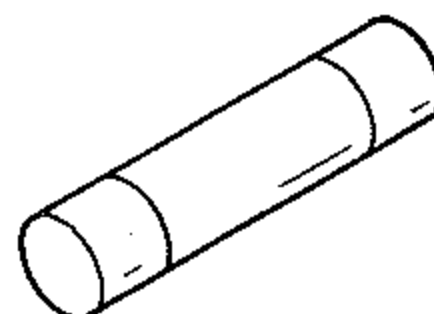
- ① 接続ケーブル(A) T9101261 1
(8 P DIN コネクタ付ケーブル)



- ② 接続ケーブル(B) T9101260 1
(6 P DIN コネクタ付ケーブル)

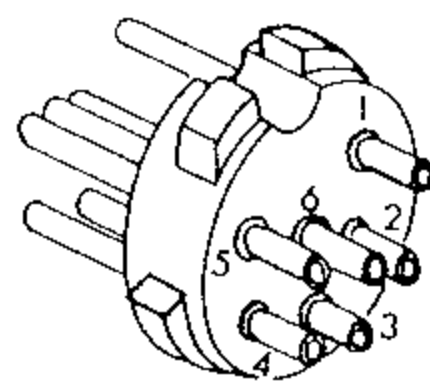


- ③ ヒューズ 1 A Q0000002 1



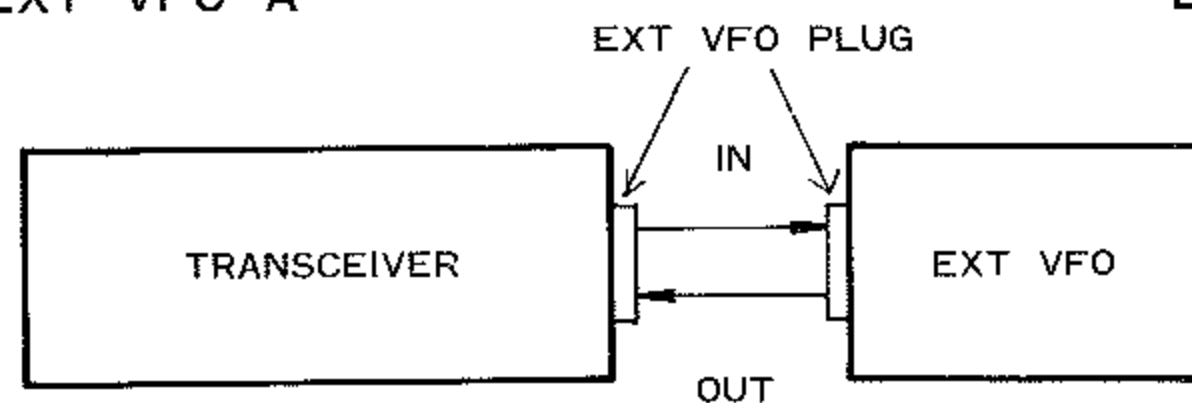
PIN No
1 12V
2 USB 8V
3 VFO 6V
4 +500kHz SHIFT
5 LSB 8V
6 TX EXT
7 D VFO OUT
8 XCVR VFO IN

EXT VFO A



PIN No
1 VFO OUT (FV-101Z, FV-901DM)
NC (FV-101DM)
2 GND
3 EXT 6V IN
4 AGC IN (FV-901DM)
5 TX 12V IN
6 GND (FV-101Z, FV-901DM)
RX EXT (FV-101DM)

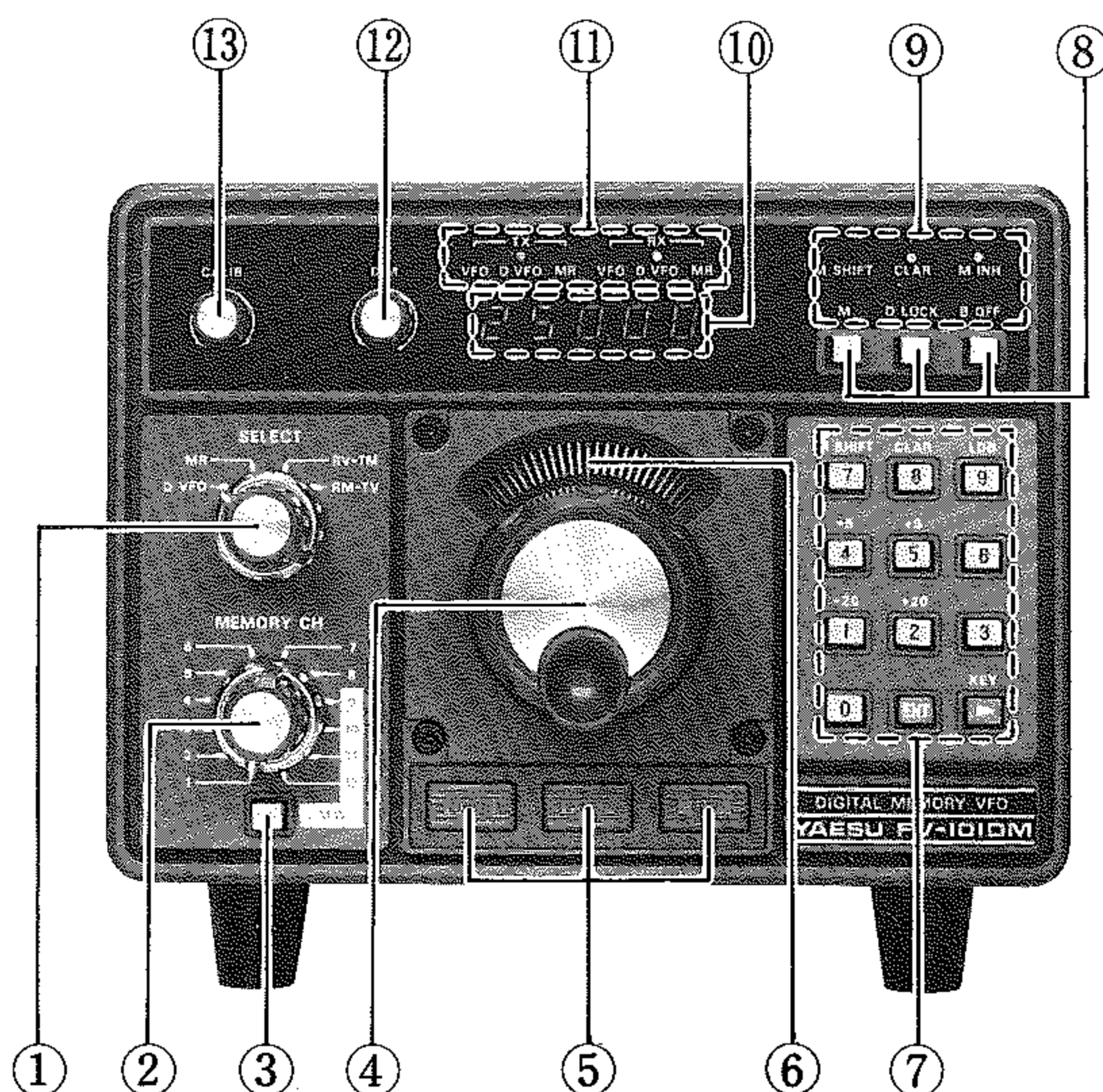
EXT VFO B



目 次

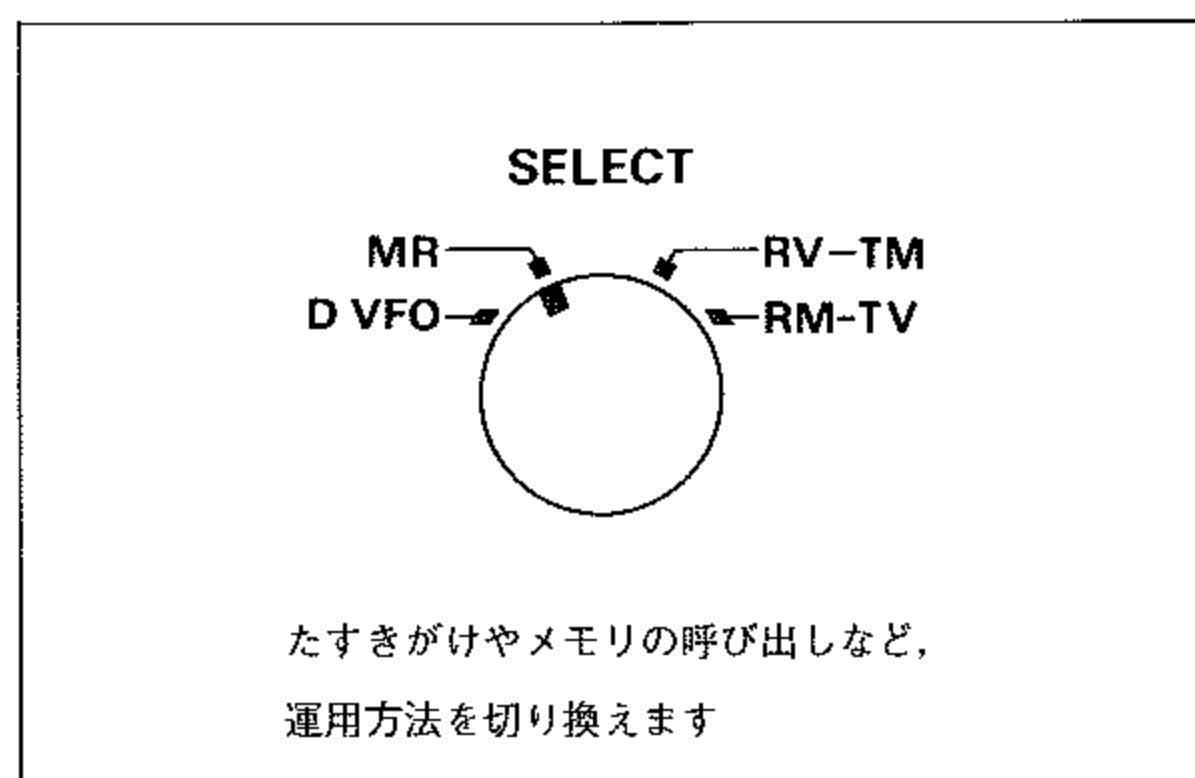
付 属 品	頁 2
パ ネ ル 面 の 説 明	3
使 い 方	9
定 格 . 使 用 半 導 体	表 3

パネル面の説明



☆説明中、FT-101ZDシリーズの内蔵 VFO を親機 VFO、
FV-101DM の VFO をデジタル VFO とします。

① SELECT



運用周波数の制御方法を選択するスイッチです。ツマミの位置により次の様な運用方法が選択できます。

(1) D VFO

送・受信とも、デジタル VFO で設定した周波数で運用できます。

(2) MR

送・受信とも、メモリチャンネルにメモリされている周波数で運用できます。

(3) RV-TM

受信周波数はデジタル VFO で設定した周波数、送信周波数はメモリチャンネルにメモリされている周波数で運用できます。(たすきがけ運用)

(4) RM-TV

受信周波数はメモリチャンネルにメモリされている周波数、送信周波数はデジタル VFO で設定した周波数で運用できます。(たすきがけ運用)

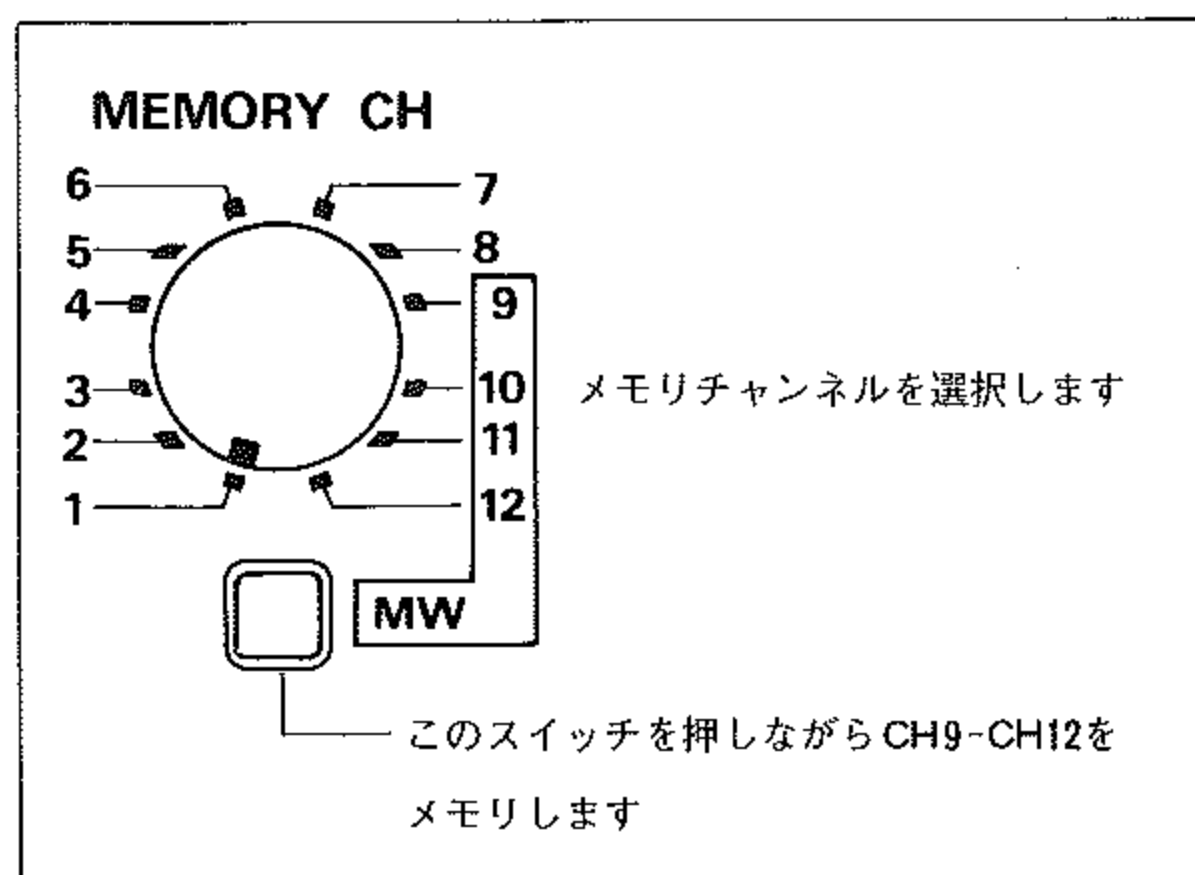
※1) 上記の運用方法は、親機 (FT-101ZD) の

SELECT スイッチが EXT になっている必要があります。

2) 親機の SELECT スイッチとの組み合わせにより、上記の運用方法のほかに、各種のたすきがけ操作が行えます。

その方法を11頁の第1表に示します。

② MEMORY CH



メモリチャンネルを選択するスイッチです。

メモリできる周波数は12チャンネルで、重ねてメモリすることにより、新しい周波数をメモリに書き換えることができます。

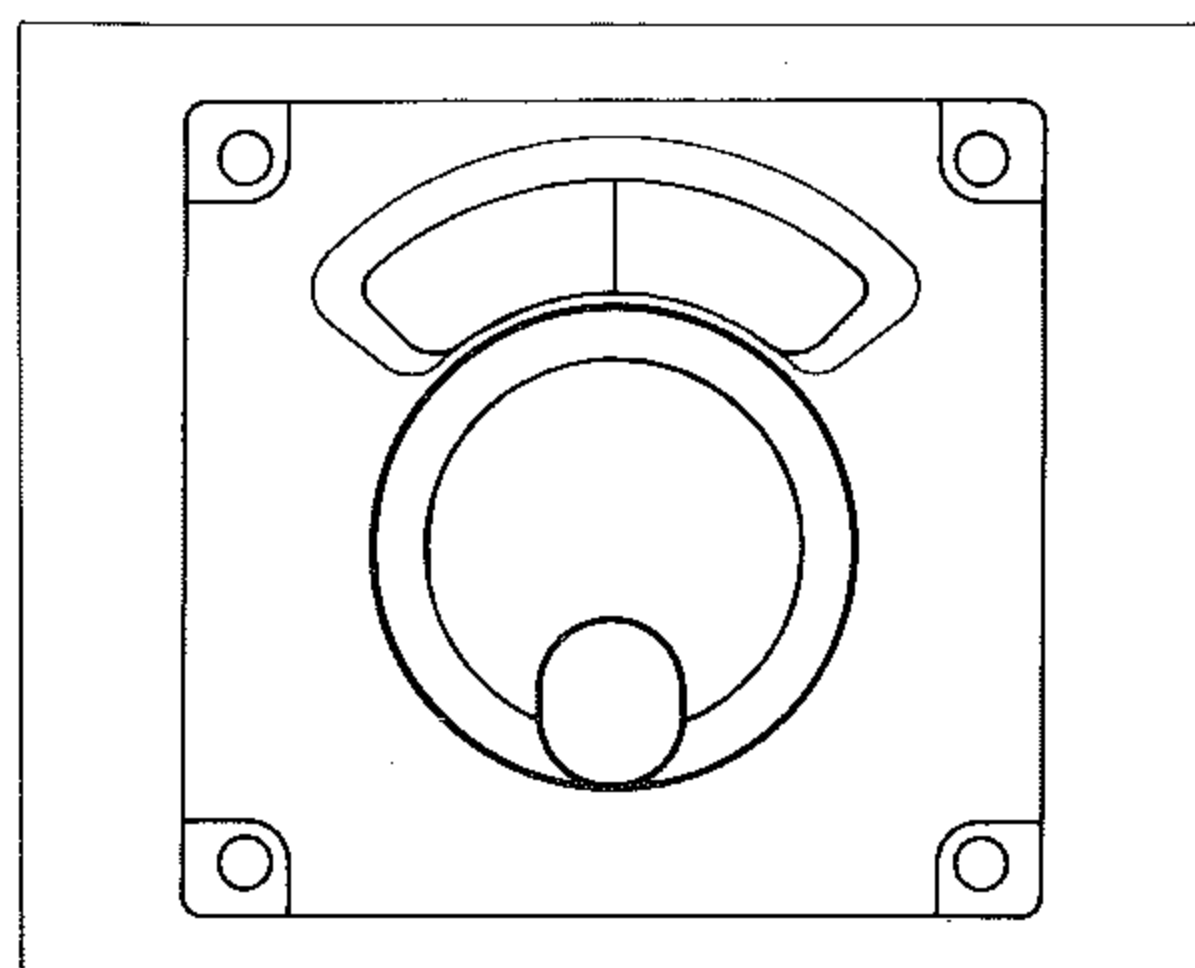
また9～12の4チャンネルは消去防止回路が付いておきますので、誤ってすでにメモリされている周波数をクリアするのを防ぐことができます。

③ MW

消去防止回路付のメモリチャンネル（9～12チャンネル）に周波数をメモリする時に押すキーです。

1～8のメモリチャンネルは、⑧のMキーを押すだけでメモリチャンネルに周波数をメモリすることができますが、9～12のメモリチャンネルでは、このMWキーと一緒にMキーを押さないと、メモリチャンネルに周波数をメモリすることが出来ません。

④ TUNING KNOB



デジタル VFO の周波数を変えるツマミです。

回し始めた最初の2秒間は1回転約4kHz、それ以後は1回転約8kHzの速さでバンド内(500kHz±100kHz)をエンドレス（周波数が高くなる方向に変化さ

せていきバンドの上端まで進むと、次はバンドの下端に移ってまた周波数が高くなる方向に変化する方法で、周波数が低くなる方向に変化させますと、反対の動作をします。)で変化します。

なお、クラリファイア動作時は、このツマミがクラリファイアツマミとして動作します。

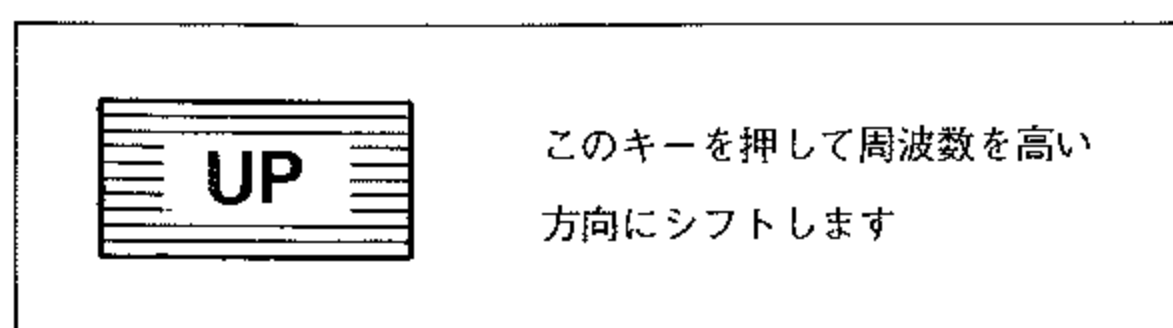
また⑤のUP/DWNキーボードの **FAST** キーを押しながら回すことにより、TUNING KNOBの可変速度を、10倍にする事ができます。

〔回し始めた最初の2秒間は1回転約40kHz、
それ以後は1回転約80kHzの速さとなります。〕

⑤ UP/DWNキーボード

TUNING KNOB、キーボード又はメモリチャンネルにより設定した運用周波数をシフトさせるキーです。

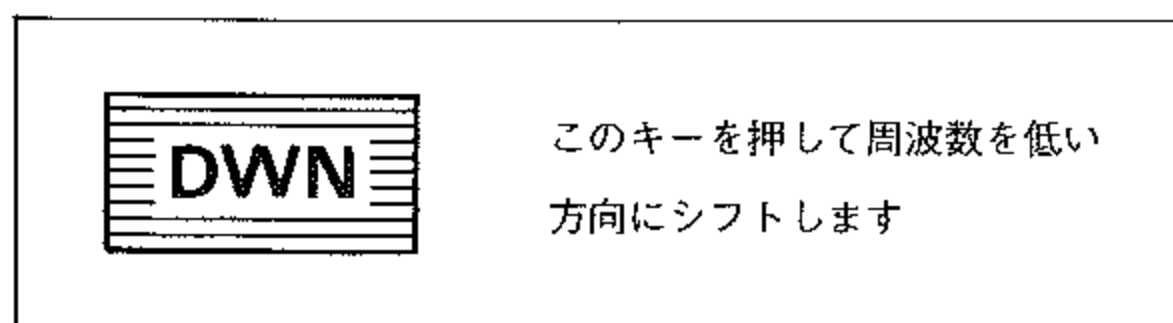
(1) **UP** キー



周波数を高い方向にシフトさせるキーで、押している時間だけシフトを続け、離せばシフトは停止します。

シフト量は、最初の2秒間は約500Hz/sec、それ以後は1kHz/secの速さでバンド内(500kHz±100kHz)をエンドレス（バンドの上端までシフトが進むと、次はバンドの下端に移ってまた周波数が高くなる方向に変化する方法）で変化します。

(2) **DWN** キー



周波数を低い方向に変化させるキーです。

使い方、シフト量は **UP** キーと同じですが、エンドレスの方向はバンドの下端までシフトが進むと、次はバンドの上端に移ってまた周波数が低くなる方向に変化します。

(3) **FAST** キー



このキーを押して周波数のシフト量を10倍にします

このキーを押しながら **UP** 又は **DWN** キーを押しますと10倍の速さでシフトすることが出来ます。

【最初の2秒間は約5kHz/sec, それ以後は10kHz/secの速さで変化します。】

また、このキーを押しながら④の TUNING KNOB を回しますと TUNING KNOB による周波数の可変速度を10倍にすることが出来ます。

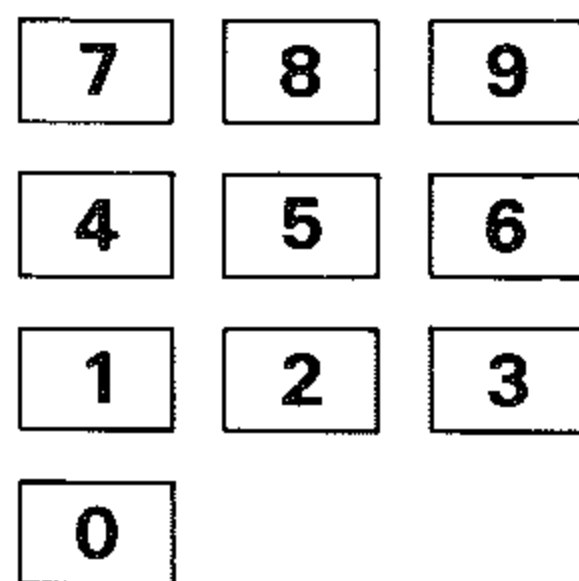
⑥ 円板ダイヤル

TUNING KNOBに直結の100分割・円板ダイヤルです。

⑦ キーボード

キーボードによる周波数の設定（キーエントリ）や各種機能の呼び出し、実行に使います。

(1) **0** ～ **9** キー

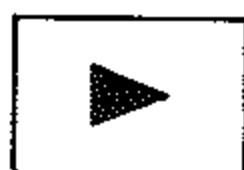


このキーを押して周波数を設定します

周波数を設定するための数字キーです。

(2) **KEY** キー

KEY



このキーを押して周波数を設定する桁を指定します

周波数を設定する時の桁を指定するキーです。

(3) **ENT** キー



このキーを押して設定した周波数をインプットします

周波数を設定した後に押すキーです。

このキーを押すことにより、始めてキーボードにより入力された周波数が実行されます。

なお(1)～(3)までのキーの詳しい使い方は、10頁の「キーボードによる周波数の設定方法（キーエントリ）」の項を参照してください。

(4) **M SHIFT** **7** キー

M SHIFT



メモリチャンネルの周波数をシフトする時にこのキーを押します

メモリチャンネルにメモリされている周波数をシフトするキーです。（メモリシフト機能）

シフトは④の TUNING KNOB, 又は⑤の UP / DWN キーにより行います。

またこの時に、⑨のインジケータの M SHIFT LED が点灯してメモリシフト回路が動作していることを表示します。

再びこのキーを押すとメモリシフトは解除され、M SHIFT LED も消えます。

メモリシフト中は±5kHz, ±20kHz シフト及びキーエントリは動作しません。

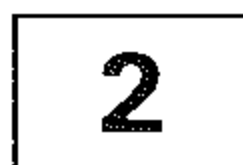
(5) ⁻²⁰**1**, ⁺²⁰**2**, ⁻⁵**4**, ⁺⁵**5** キー

-20



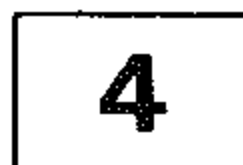
運用周波数をマイナス 20kHz シフトするキーです

+20



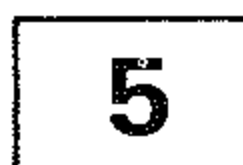
運用周波数をプラス 20kHz シフトするキーです

-5



運用周波数をマイナス 5kHz シフトするキーです

+5

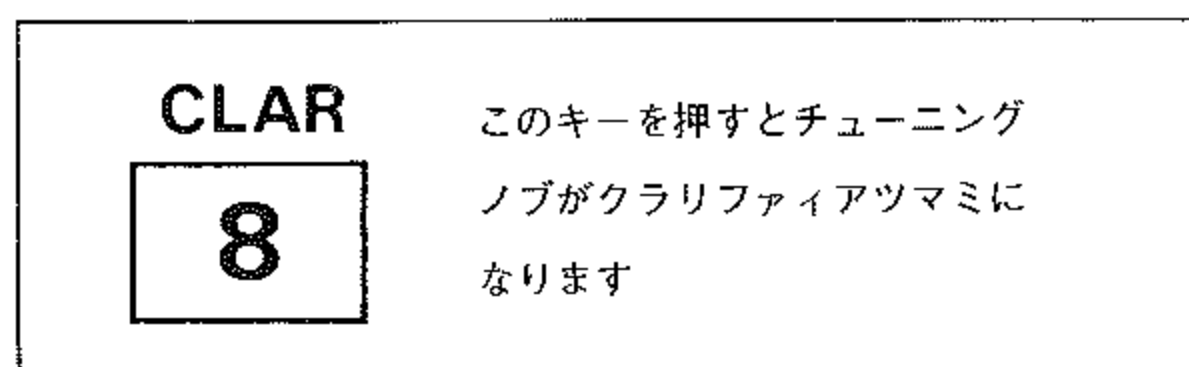


運用周波数をプラス 5kHz シフトするキーです

運用周波数を各々の値だけシフトするキーです。各キーの単位は kHz です。例えば、 $\overset{-20}{\boxed{1}}$ キーでは 20kHz 低い周波数にシフトすることを表わします。但し、この機能はメモリシフト、及びクラリファイア動作中は動作しません。

また、このキー操作によりオフ・バンドした場合は、エラー・ブザーが約 0.5 秒間鳴り実行されません。

(6) $\overset{\text{CLAR}}{\boxed{8}}$ キー



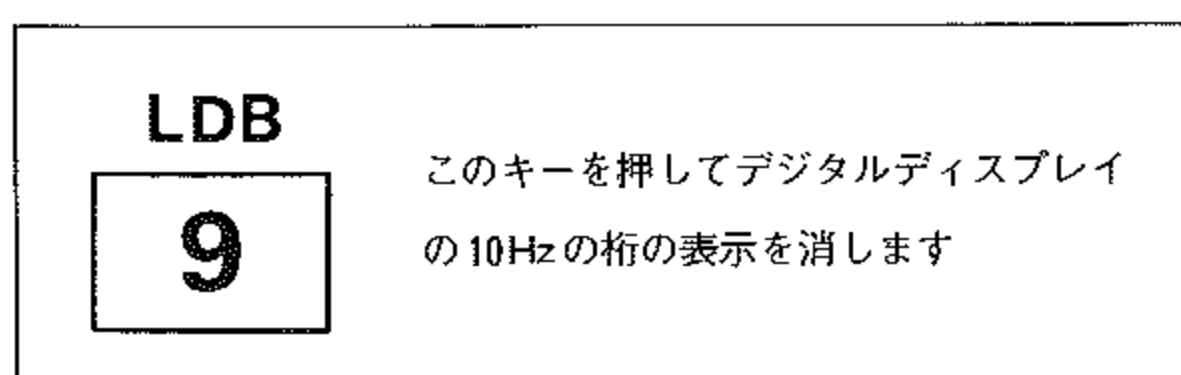
送信周波数に関係なく受信周波数だけを可変させることができるクラリファイア機能を動作させるキーです。

このキーを押すと、④の TUNING KNOB がクラリファイア調整用ツマミに変わります。

また、⑨のインジケータの CLAR LED が点灯し、クラリファイア機能が動作していることを示します。再びこのキーを押すとクラリファイアは解除され、CLAR LED も消えます。

クラリファイアは、デジタル VFO、メモリチャンネル、及びメモリシフトに対して動作し、可変速度、可変範囲は TUNING KNOB と同じで、回し始めた最初の 2 秒間は 1 回転約 4kHz、それ以後は 1 回転約 8kHz の速さでバンド内をエンドレスに変化します。クラリファイア動作中は $\pm 5\text{kHz}$ 、 $\pm 20\text{kHz}$ シフト及びキーエントリは動作しません。

(7) $\overset{\text{LDB}}{\boxed{9}}$ キー



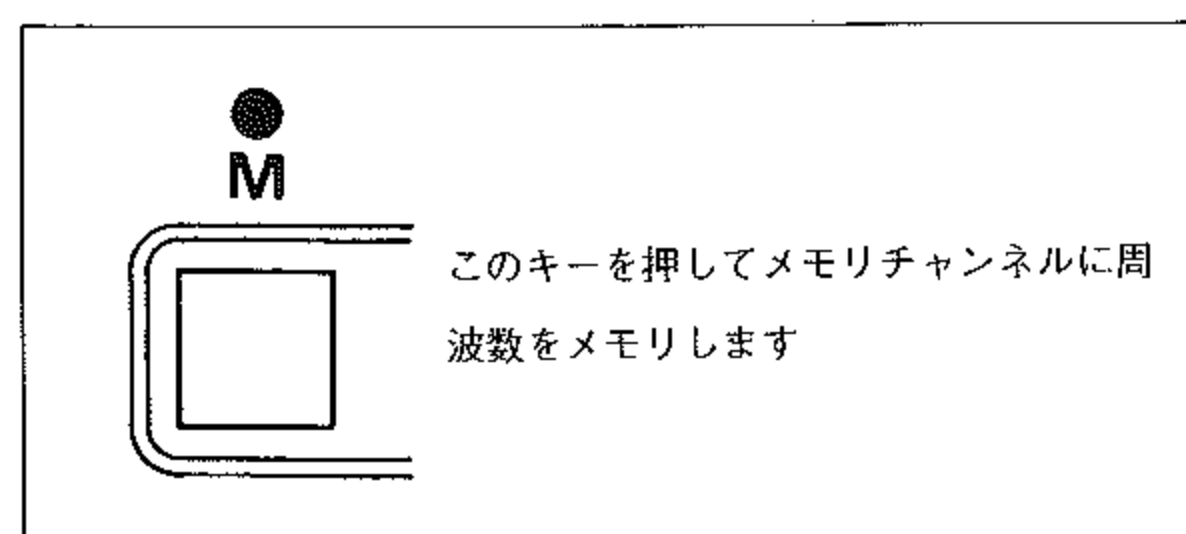
⑩のデジタル・ディスプレイの 10Hz の桁の表示を消すキーです。

10Hz の桁の表示が目障りと思われたら、このキーを押して 10Hz の桁の表示を消してください。

もう一度押すと 10Hz の桁が再び表示されます。なお、キーエントリする時は、この動作は自動的にクリアされます。

⑧ プッシュスイッチ

(1) M



メモリチャンネルに周波数をメモリする時に使用するキーです。

このキーを押すと②の MEMORY CH で選択したメモリチャンネルに親機の VFO 又はキーエントリで設定した周波数をメモリすることが出来ます。

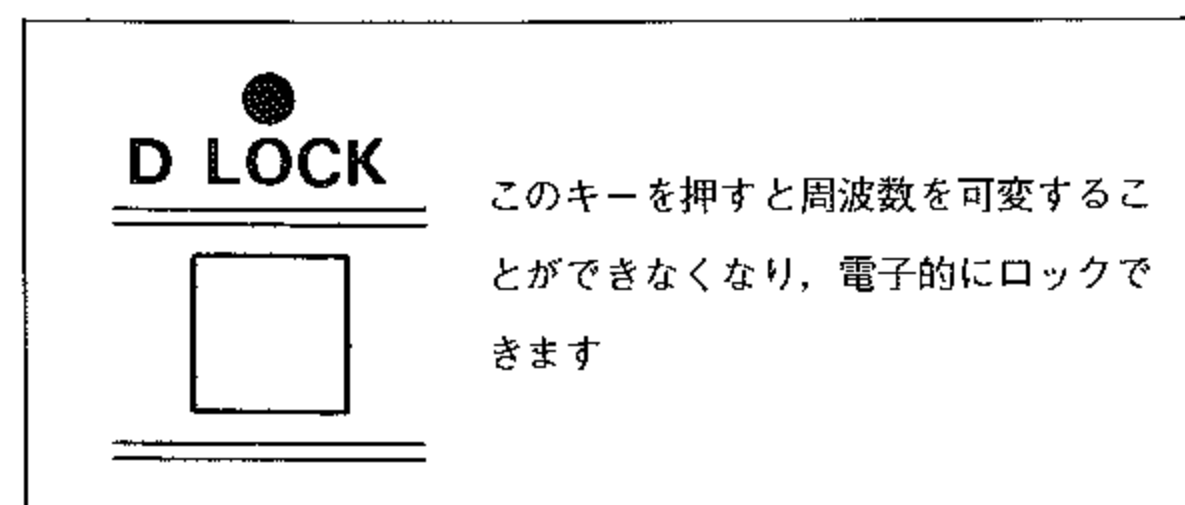
但し、9～12の消去防止回路付メモリチャンネルにメモリする時は、③の MW キーと一緒に押しませんとメモリすることはできません。

また、親機の SELECT が VFO、本体の SELECT が D VFO にセットされている時にこのキーを押すと、デジタル VFO の周波数を、親機 VFO の周波数に一致させることが出来ます。

⑨のインジケータの M INH LED が点灯している時はこのキーは動作しません。

M INH LED が点灯する条件は、⑨のインジケータの説明を参照してください。

(2) D LOCK

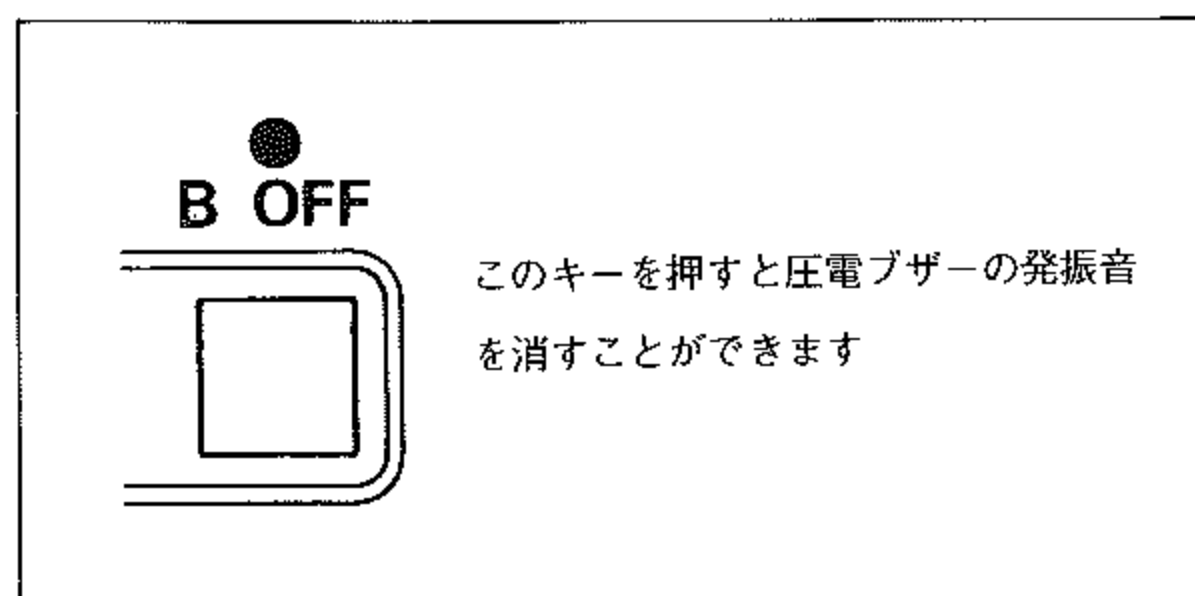


TUNING KNOB 及び UP /DWN キーを電子的にロックするダイヤルロックキーです。

このキーを押すと、運用中に誤って TUNING KNOB 又は UP /DWN キーに触れても周波数は変わりません。この時、⑨のインジケータの D LOCK LED が点灯して、ロック状態であることを示します。

再び押すと、ロック状態は解除され、D LOCK LED も消えます。

(3) B OFF



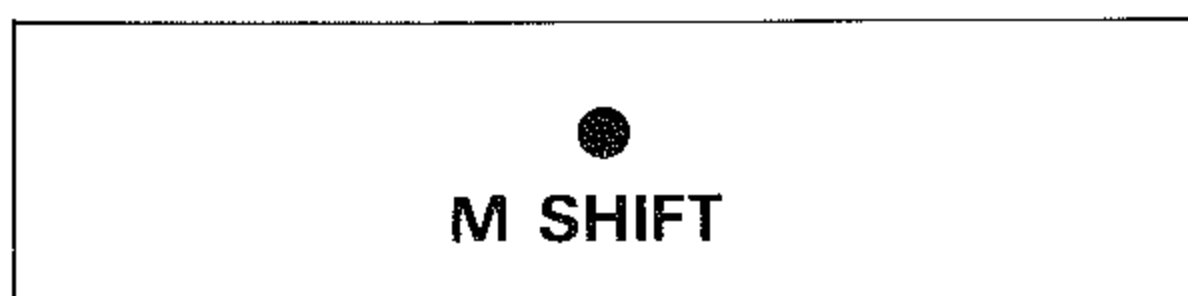
オフバンドした時、及び各キー（UP/DWN キーは除く）操作時に鳴るブザーの音を消す時に使用するキーです。

ブザーがOFF（鳴らない）の時のオフバンド及び各キー操作の確認は⑨のインジケータのB OFF LEDが点灯することによって行えます。（B OFF LEDはブザーがONの時にも点灯します）

⑨ インジケータ

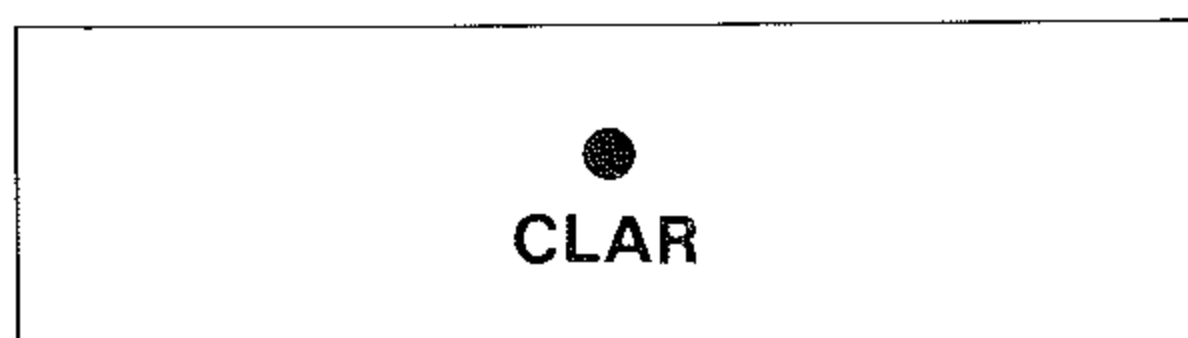
各機能の動作状態を表示するLEDです。

(1) M SHIFT



メモリシフト動作時に点灯します。

このLEDが点灯している時には、 $\pm 5\text{kHz}$ 、 $\pm 20\text{kHz}$ シフト及びキーエントリは動作しません。



クラリファイア動作時に点灯します。

このLEDが点灯している時には、 $\pm 5\text{kHz}$ 、 $\pm 20\text{kHz}$ シフト及びキーエントリは動作しません。

(3) M INH



このLEDが点灯している時には、次の操作はできません。

- (I) キーボードによる周波数の設定（キーエントリ）
- (II) Mキーによるメモリチャンネルへの周波数のメモリ。

(III) Mキーにより、デジタルVFOの周波数を親機VFOの周波数に一致させる操作。

(i) SELECTスイッチがMR又はRM-TVの位置にあり、かつメモリチャンネルが9～12チャンネルのいずれかにある。（キーエントリをしようとする場合）

(a) SELECTスイッチをD VFOにセットする。

(b) メモリチャンネルを1～8チャンネルのいずれかにセットする。

(c) MWキーを押しながらキーエントリする。

以上の操作を行うことにより、M INH LEDは消えキーエントリすることができます。ただし、(b)、(c)の方法でキーエントリしますと、キーエントリで設定した周波数がメモリチャンネルにメモリされてしまいますので、メモリ周波数の設定以外でキーエントリする時には使用していないメモリチャンネルで行ってください。

(II) メモリチャンネルが9～12チャンネルのいずれかにある。（メモリチャンネルに周波数をメモリしようとする場合）

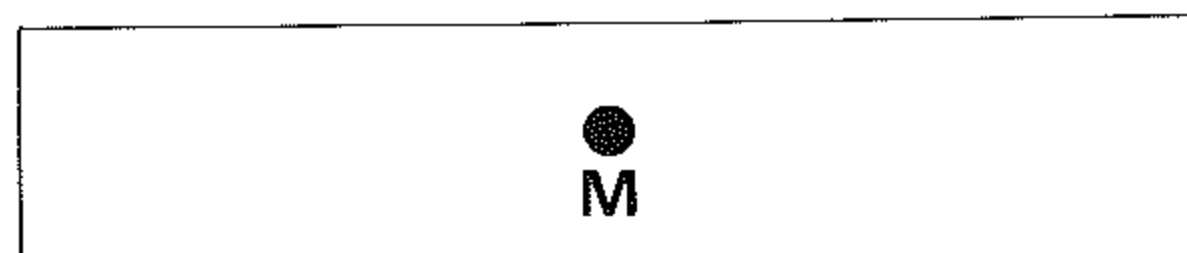
(a) メモリチャンネルを1～8チャンネルのいずれかにセットすればM INH LEDは消え、Mキーを押せばメモリすることができます。

(b) MWキーと一緒にMキーを押せばメモリすることができます。

(III) 親機（FT-101ZD）のSELECTがEXTになっている。（デジタルVFOの周波数を親機VFOの周波数に一致させようとする場合）

(a) 親機のSELECTをVFOに切り換えることによりM INH LEDは消え、Mキーを押せばデジタルVFOの周波数が親機VFOの周波数と一致します。

(4) M



本機（FV-101DM）のメモリ回路が正常な状態にある時点灯します。

このLEDが消えた場合には、12頁の「バックアップ機能」の項を参照してメモリ回路を正常な状態にもどしてください。

(5) D LOCK



TUNING KNOB 及び UP/DWN キーがロック状態の時に点灯します。

この LED が点灯している時には、TUNING KNOB 及び UP/DWN キーによる周波数の可変はできません。

(6) B OFF



オフバンド時及びキー操作時（UP/DWN キーは除く）に点灯します。

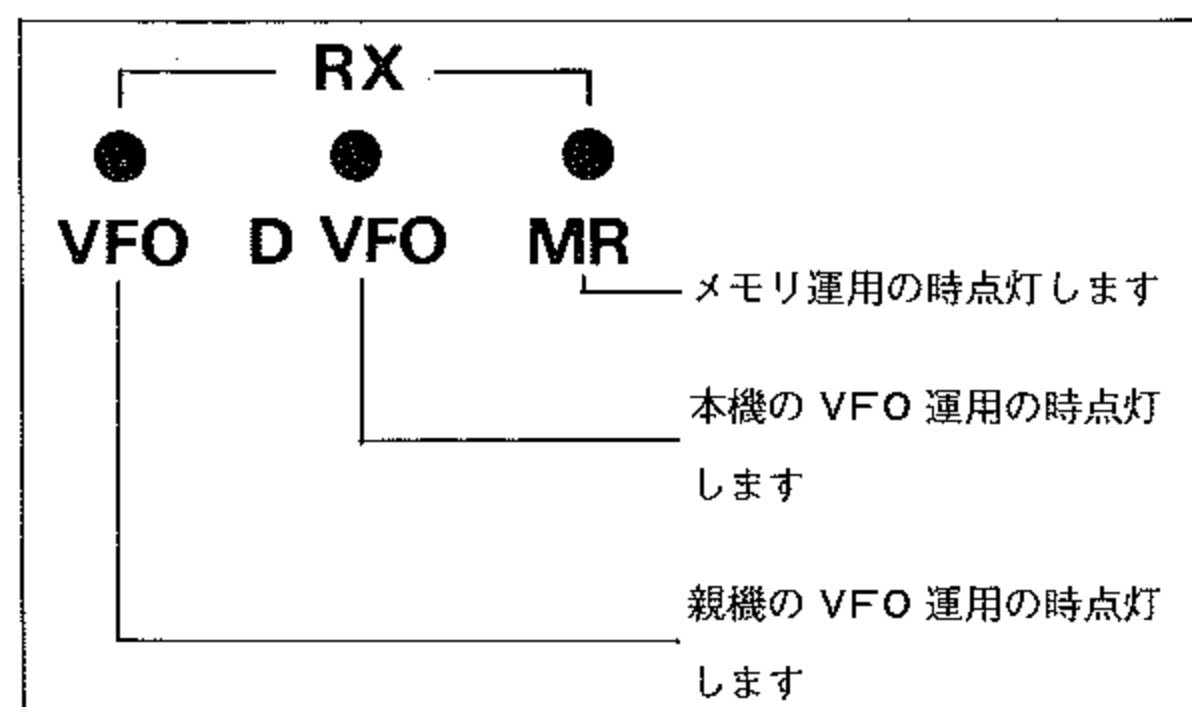
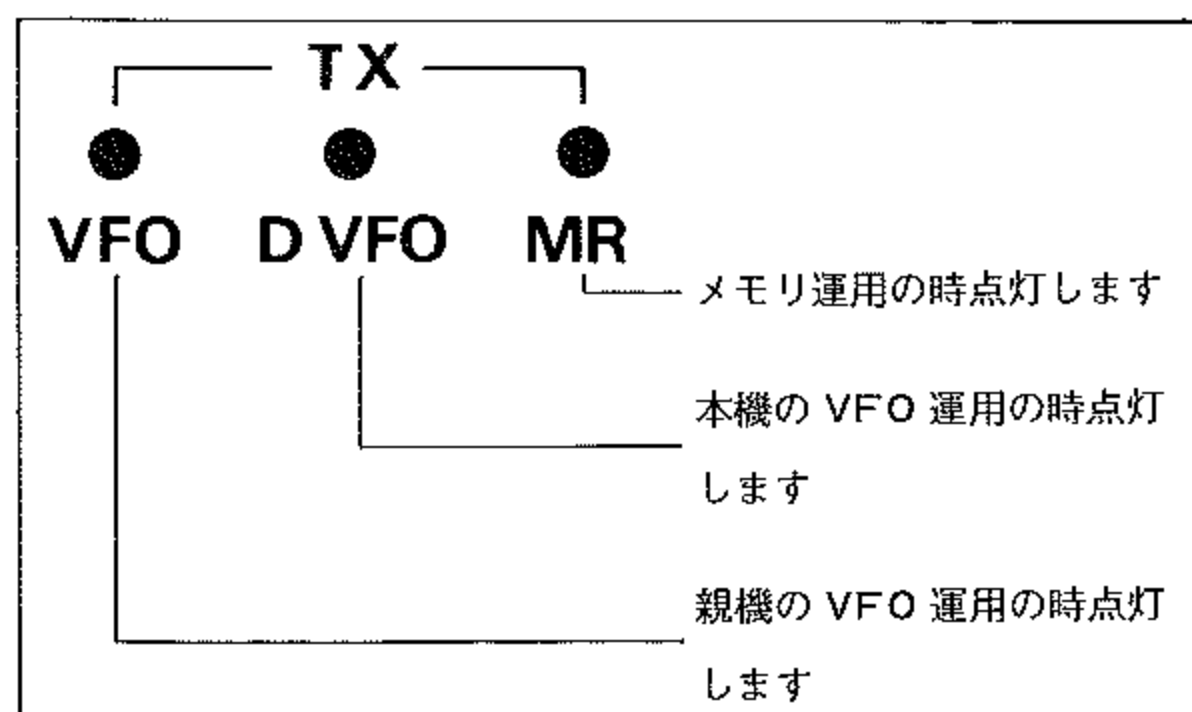
この LED が点灯することにより、確実にキー操作を行ったかを確認することができます。

⑩ デジタル・ディスプレイ



TUNING KNOB, キーボード又はメモリチャンネルで設定した運用周波数を表示する LED で、100kHz の桁から 10Hz の桁まで、5 桁で表示します。

⑪ VFO インジケータ

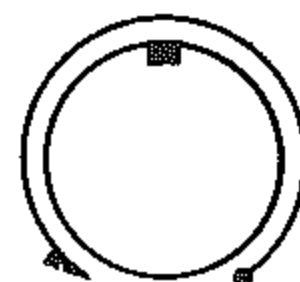


6 個の LED により送受信時の周波数制御が何によって行なわれているが一目でわかります。

ここで VFO は親機 (FT-101ZD) の内蔵 VFO, D VFO は本機 (FV-101DM) のデジタル VFO, MR はメモリチャンネルによる周波数制御を表わしています。

⑫ DIM

DIM

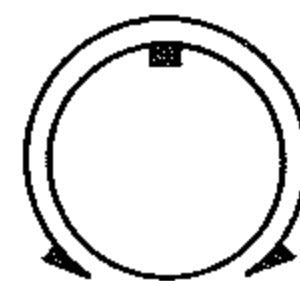


デジタルディスプレイ、ダイヤル照明の光度を調節します

周囲の明るさに合わせて、デジタルディスプレイ及びダイヤルの照明の光度を調節するつまみです。時計方向にまわすほど明るくなります。

⑬ CALIB

CALIB



このつまみで親機と本機の表示周波数を合わせます

親機 VFO とデジタル VFO のキャリブ用つまみです。このつまみにより、親機 VFO とデジタル VFO の周波数表示を一致させます。

使 い 方

本項において特に親機、本機などの指定のないツマミ、インジケータ類はFV-101DMの物を示します。

1. 予 備 操 作

- ① 第1図の様に6P DINコードと8P DINコードで、FT-101ZDシリーズ（以下親機とします）とFV-101DM（以下本機とします）を接続します。また、バックアップ用乾電池を12頁の「バックアップ機能」の項に従ってバックアップ用電池ホルダに取り付けて下さい。

- ② 親機及び本機のツマミ類を以下の様に設定します。

親機	SELECT	VFO
	BAND	40(7MHzバンドとします)
	MODE	LSB
本機	SELECT	D VFO
	MEMORY CH	..1
	DIM	時計方向にまわし切る。
	CALIB	ほぼ中央

- ③ 親機の電源スイッチをONにします。

万一、MのLEDが消えていましたら、メモリ回路がUNLOCKの状態ですから、12頁の「バックアップ機能」の項を参照して、メモリ回路を正常な状態にして下さい。

メモリ回路が正常であれば（MのLEDが点灯している状態）、本機のデジタル・ディスプレイは001.50（7.001.50MHz）を表示します。

※親機のMODEスイッチがUSBかCWであれば998.50、AM・FMであれば999.20を表示します。次に電源スイッチを入れる時には、電源スイッチを切る以前に表示していた周波数を表示します。

また、この時M SHIFTのLEDが点灯していたら、SHIFTキーを押して表示を消します。

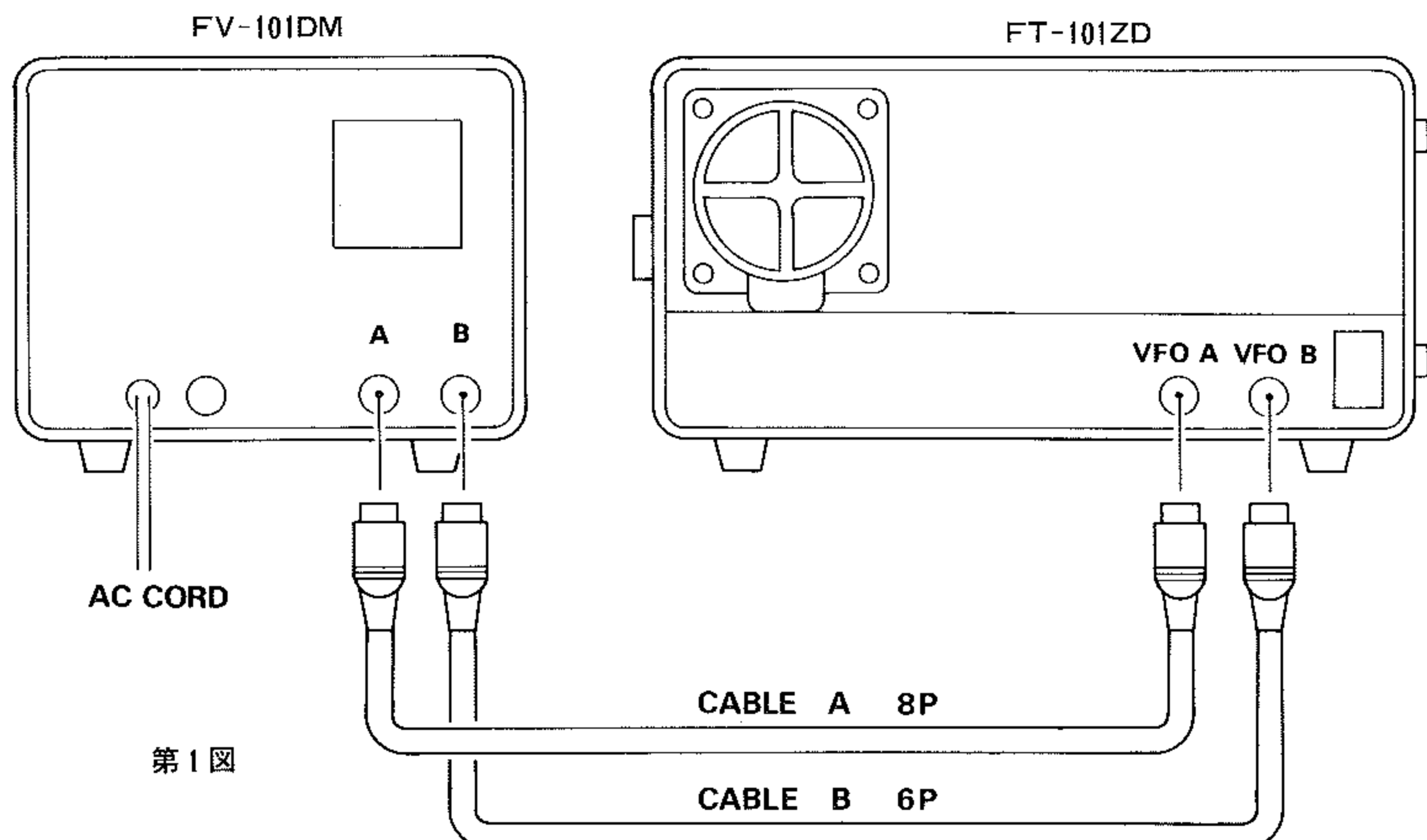
同様に、CLARのLEDが点灯していたら、CLARキーを押して表示を消します。

※これらのインジケータは、デジタル・ディスプレイの表示と同様に、次に電源スイッチを入れる時には、電源スイッチを切る以前に表示されていた状態を表示します。

- ④ 親機のSELECTスイッチをEXTに切り換えます。そして親機のデジタル・ディスプレイの周波数表示が本機のデジタル・ディスプレイの表示と一致する様に、本機のCALIBツマミを調整します。

- ⑤ これで予備操作は完了です。

なお④の操作は、親機のBANDスイッチを切り換えるたびに行なって下さい。（親機のローカル周波数のズレ補正）



第1図

2. D VFO (デジタルVFO) の使い方

- ① 本機の SELECT スイッチを D VFO にセットします。
- ② この状態で本機はデジタル VFO として動作し、デジタルディスプレイにデジタル VFO の周波数が表示されます。
- ③ 周波数の可変は本機の TUNING KNOB, UP/DWN キー又は $\pm 5\text{kHz}$, $\pm 20\text{kHz}$ シフトキーによって行えます。

※TUNING KNOB, UP/DWN キー, 及び $\pm 5\text{kHz}$, $\pm 20\text{kHz}$ シフトキーの動作は「パネル面の説明」を参照してください。

- ④ 親機の SELECT スイッチの位置により、11頁の第1表に示される各種のたすきがけ運用ができます。

また、6個の VFO インジケータにより、送受信周波数の制御が何によって行なわれているかが一目でわかります。

- ⑤ 親機の SELECT スイッチが VFO の位置にあるとき本機の M キーを押しますと、本機のデジタル VFO の周波数を親機 VFO の周波数と同じにすることができます。

3. MEMORY の使い方

- ① 親機の SELECT スイッチを VFO, 本機の SELECT スイッチを MR にセットします。
- ② 本機の MEMORY CH スイッチでメモリするチャンネルを指定します。
- ③ 親機 VFO 又は本機のキーボードでメモリしたい周波数を設定します。

※キーボードによる周波数の設定方法は 10 頁の「キーボードによる周波数の設定方法 (キーエントリー)」の項を参照して下さい。

- ④ M キーを押すと、“ピッ”とブザーが鳴ると同時に B OFF の LED が点灯しメモリチャンネルに周波数がメモリされます。(B OFF キーが ON の状態では、ブザーは鳴りません)

但し、9-12 のメモリチャンネルでは、MW キーと一緒に M キーを押しませんとメモリすることはできません。

- ⑤ ②-④の方法により、12 のメモリチャンネルに順次メモリできます。
- ⑥ M SHIFT キーを押しますと、M SHIFT LED が点灯しメモリチャンネルの周波数を本機の TUNING

KNOB 又は UP/DWN キーでシフトすることができます。(メモリシフト機能)

また、シフトした周波数を④の方法でメモリすることもできます。

- ⑦ M SHIFT キーを再び押すとメモリシフトは解除され M SHIFT LED も消えます。

なおメモリシフト動作中は、キーエントリー及び $\pm 5\text{kHz}$, $\pm 20\text{kHz}$ シフトは動作しません。

- ⑧ 親機と本機の SELECT スイッチの組み合わせにより 11 頁の第 1 表に示される各種のたすきがけ運用ができます。

※1) メモリチャンネルの周波数を $\pm 5\text{kHz}$, $\pm 20\text{kHz}$ シフトキーでシフトしますと、メモリされている周波数が書き換えられてしまいますのでご注意ください。

- 2) キーエントリーによるメモリ周波数の設定と親機 VFO によるメモリ周波数の設定では、キーエントリーによるメモリ周波数の設定の方が優先されます。

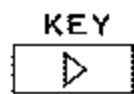
- 3) すべてのメモリチャンネルには、初めて電源スイッチを入れた時には、親機の MODE スイッチの位置により、LSB では 001.50, USB と CW では 998.50, AM・FM では 999.20 がメモリされています。

次に電源スイッチを入れる時には、電源スイッチを切る以前にメモリされていた周波数を表示します。(周波数をメモリしなければ、初めて電源スイッチを入れた時と同じ表示をします。)

4. キーボードによる周波数の設定方法(キーエントリー)

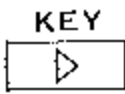
キーエントリーは、本機のキーボードにより周波数を設定 (又は任意の桁を変更) する機能で、本機の SELECT スイッチがどの位置にあっても動作します。

但し、本機の SELECT スイッチが MR 又は RM-TV の位置にあり、かつメモリチャンネルが 9-12 チャンネルのいずれかにある時には M INH の LED が点灯し動作しません。

- ① 本機の  キーを押します。

本機のデジタル・ディスプレイの 100kHz の桁が点滅し、設定可能状態となります。

- ② 設定したい周波数の 100kHz の桁の数字を数字キーで入力します。
- ③ 入力しますと点滅する桁が 1 桁下がりますので順に 10Hz の桁まで入力します。

ここで、ある桁がデジタル・ディスプレイの表示と同じで書き換える必要のない時は  キーを押して次の桁にジャンプすることができます。

また、100kHzの桁だけを変更する時の様に、ある桁以下の周波数を書き換える必要のない時は、その桁の入力がすみしたら **ENT** キーを押してキーボードによる周波数の設定を完了することができます。

- ④ すべての桁が入力できたら **ENT** キーを押します。
- ⑤ 以上でキーボードによる周波数の設定は完了しました。
- ⑥ 親機と本機の SELECT スイッチの組み合わせにより、第1表に示される各種のたすきがけ運用ができます。
- ⑦ TUNING KNOB 又は UP/DWN キーを操作するとキーエントリした周波数から周波数が変化します。

TUNING KNOB と UP/DWN キーを同時に操作した時は、UP/DWN キーが、UP キーと DWN キーでは UP キーが優先して動作します。

※1) キーエントリによりオフバンドとなった場合はブザーが約0.5秒鳴り、100kHzの桁が点滅しますので改めて正しい周波数を入力してください。

- 2) SELECT スイッチが MR 又は RM-TV の位置にあり、かつ MEMORY CH が 1～8 チャンネルのいずれかの位置にある時にキーエントリしますと、M キーを押さなくてもキーエントリで設定した周波数がメモリチャンネルにメモリされ、前にメモリされていた周波数が書き換えられてしまいますのでメモリ周波数の指定以外で使用する時には、使用していないメモリチャンネルでキーエントリを行ってください。
- 3) 本機の SELECT スイッチが MR 又は RM-TV の位置にあり、かつメモリチャンネルが 9～12 チャンネルのいずれかにある時には M INH LED が点灯しキーエントリは動作しませんが、MW キーを押しながらキー操作を行えば、キーエントリすることができます。

FV-101DMの SELECT スイッチ FT-101ZD のSELECT スイッチ	D VFO	MR	RV-TM	RM-TV
V F O	TX:親機VFO RX:親機VFO	(左記と同じ)	(左記と同じ)	(左記と同じ)
E X T	TX:デジタルVFO (キーエントリ) RX:デジタルVFO (キーエントリ)	TX:MEMORY (キーエントリ) RX:MEMORY (キーエントリ)	※ TX:MEMORY (キーエントリ) RX:デジタルVFO (キーエントリ)	※ TX:デジタルVFO (キーエントリ) RX:MEMORY (キーエントリ)
T X E X T	※ TX:デジタルVFO (キーエントリ) RX:親機VFO	※ TX:MEMORY (キーエントリ) RX:親機VFO	(左記と同じ)	※ TX:デジタルVFO (キーエントリ) RX:親機VFO
R X E X T	※ TX:親機VFO RX:デジタルVFO (キーエントリ)	※ TX:親機VFO RX:MEMORY (キーエントリ)	※ TX:親機VFO RX:デジタルVFO (キーエントリ)	※ TX:親機VFO RX:MEMORY (キーエントリ)

注:親機VFO=FT-101ZDの内蔵VFO, デジタルVFO=FV-101DMのVFO.

※印はたすきがけ運用

第1表

但し、この時、他のメモリチャンネルと同様にキーエントリで設定した周波数がメモリチャンネルにメモリされてしまいますので、メモリ周波数の設定以外でキーエントリをする時には、使用していないメモリチャンネルで行ってください。

- 4) LDB動作中にキーエントリ操作を行いますと、LDB機能はクリアされますので、キーエントリ完了後再びLDBキーを押してください。

(TUNING KNOBで設定した周波数は **M** キーでメモリ書き込み、キーボードで設定した周波数は **ENT** キーでメモリします) キーボードによる周波数をメモリする場合に、**数値** キーを押した後 **ENT** キーではなく **M** キーを押す誤操作を行った場合には点滅していた桁の数字が高速で点滅する状態になります。この場合には **ENT** キーを押して元の状態に戻して再度 **KEY** **D** キー、**数値** キー、**ENT** キーの順で入力してください。

バックアップ機能

本機はメモリの内容、および電源スイッチを切る以前に設定した内容を保持するバックアップ機能を備えています。

バックアップ機能を動作させるためには、バックアップ電池を必要としますので下の写真を参考に本体背面の電池ホルダカバーのロックピンを引いてカバーを外し正しい方向(極性)で乾電池(単三型2本)を入れてください。

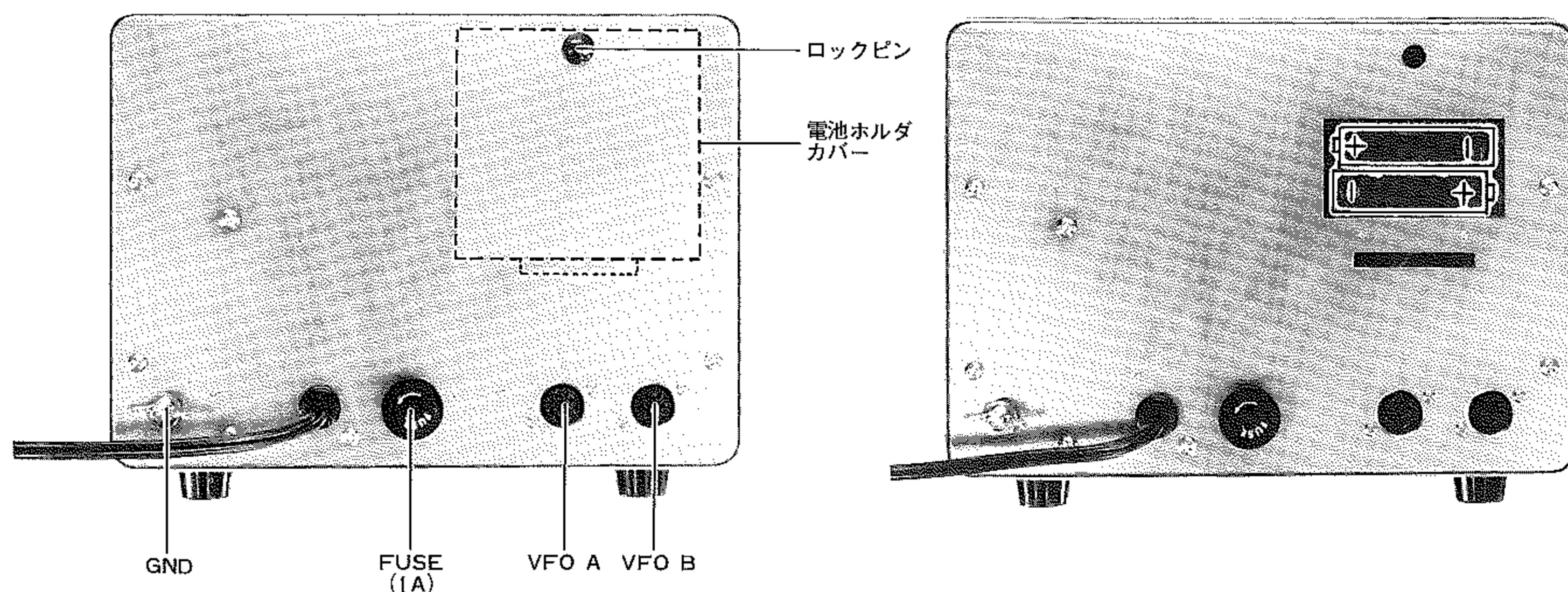
バックアップ中の消費電流はわずか数 $10\mu\text{A}$ 程度ですが約半年ごとに定期的に新しい乾電池と交換するようにしてください。

電池が古くなりますと中の電解液が漏れたりしてセット内部を腐食する恐れがありますので長期間セットを使用しない時などは電池を抜いておくようにして下さい。

万一、はじめてバックアップ電池を入れた場合、あるいは電池の交換を行った場合にインジケータの M LED が消えてメモリ回路が正常に動作をしない場合がありますら、次の順序でバックアップ電池を入れ直してください。

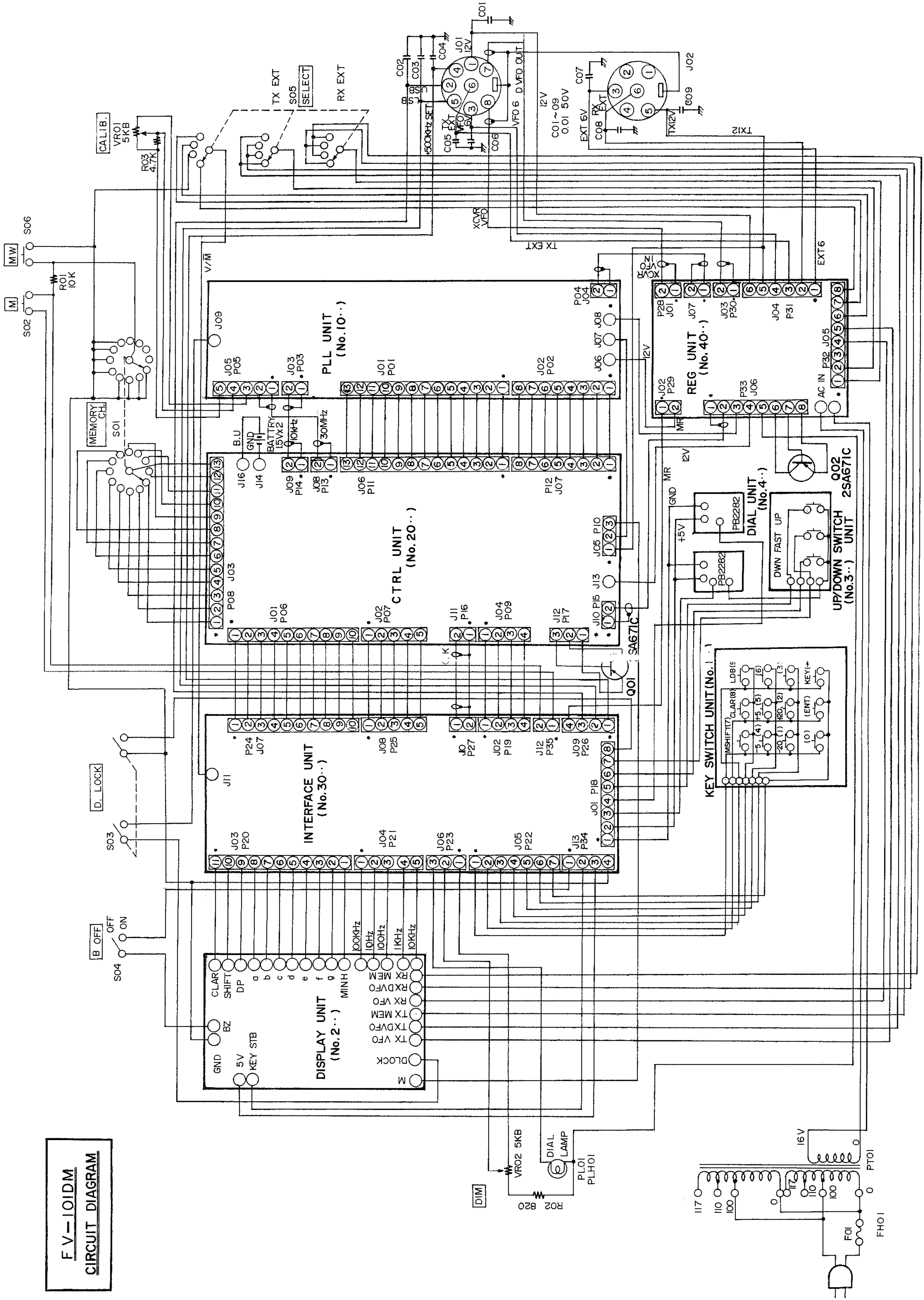
1. 親機の電源スイッチを切り、本機の電源コネクタをコンセントより抜きます。
2. バックアップ用電池ホルダより乾電池を取り外します。
3. 約30秒間放置後本機の電源コネクタをコンセントに差し込みます。
4. 親機の電源スイッチを入れます。
5. 乾電池を正しい方向でバックアップ用電池ホルダに取り付けます。

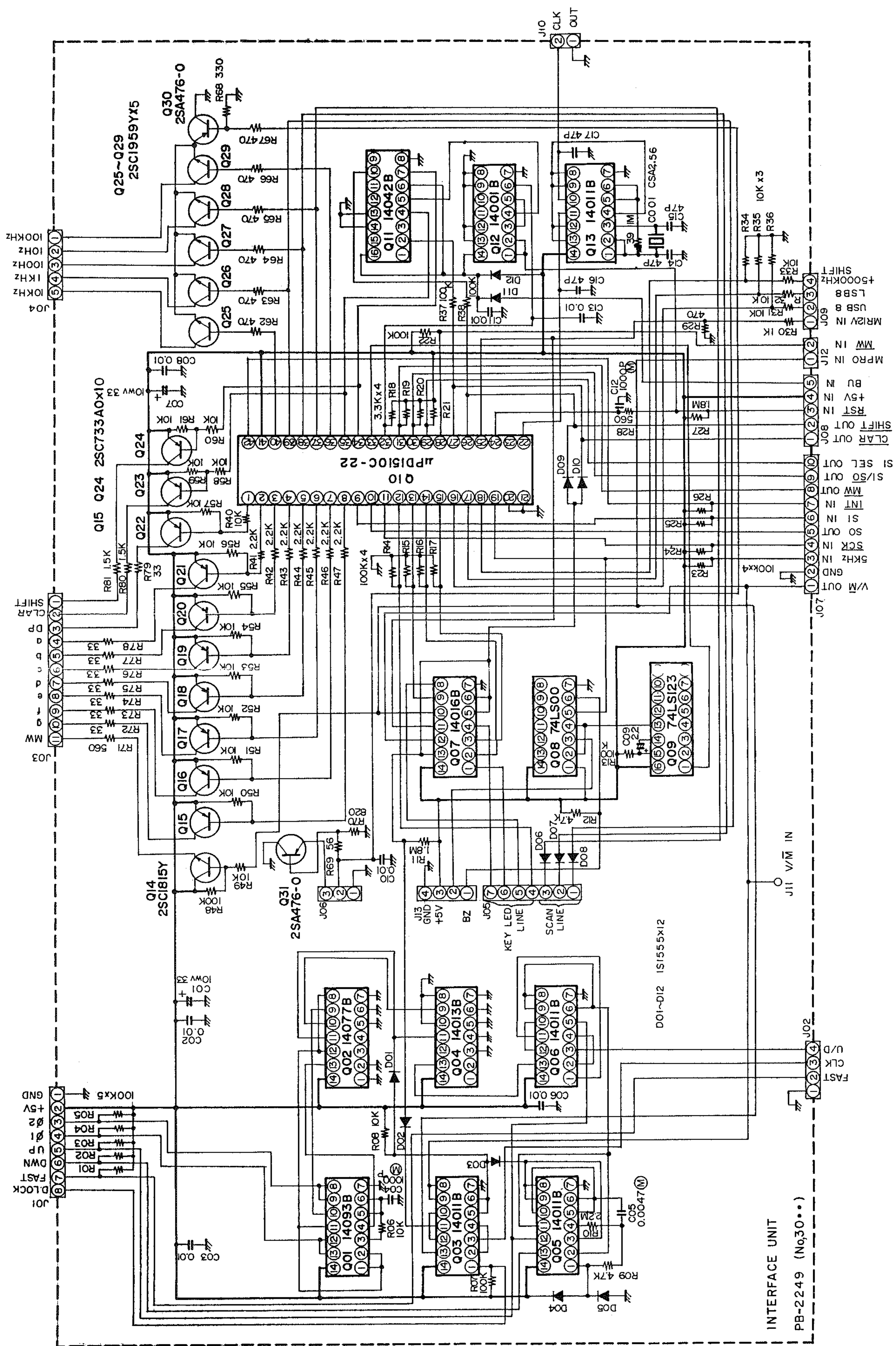
以上で初期状態にもどり、正常に動作します。

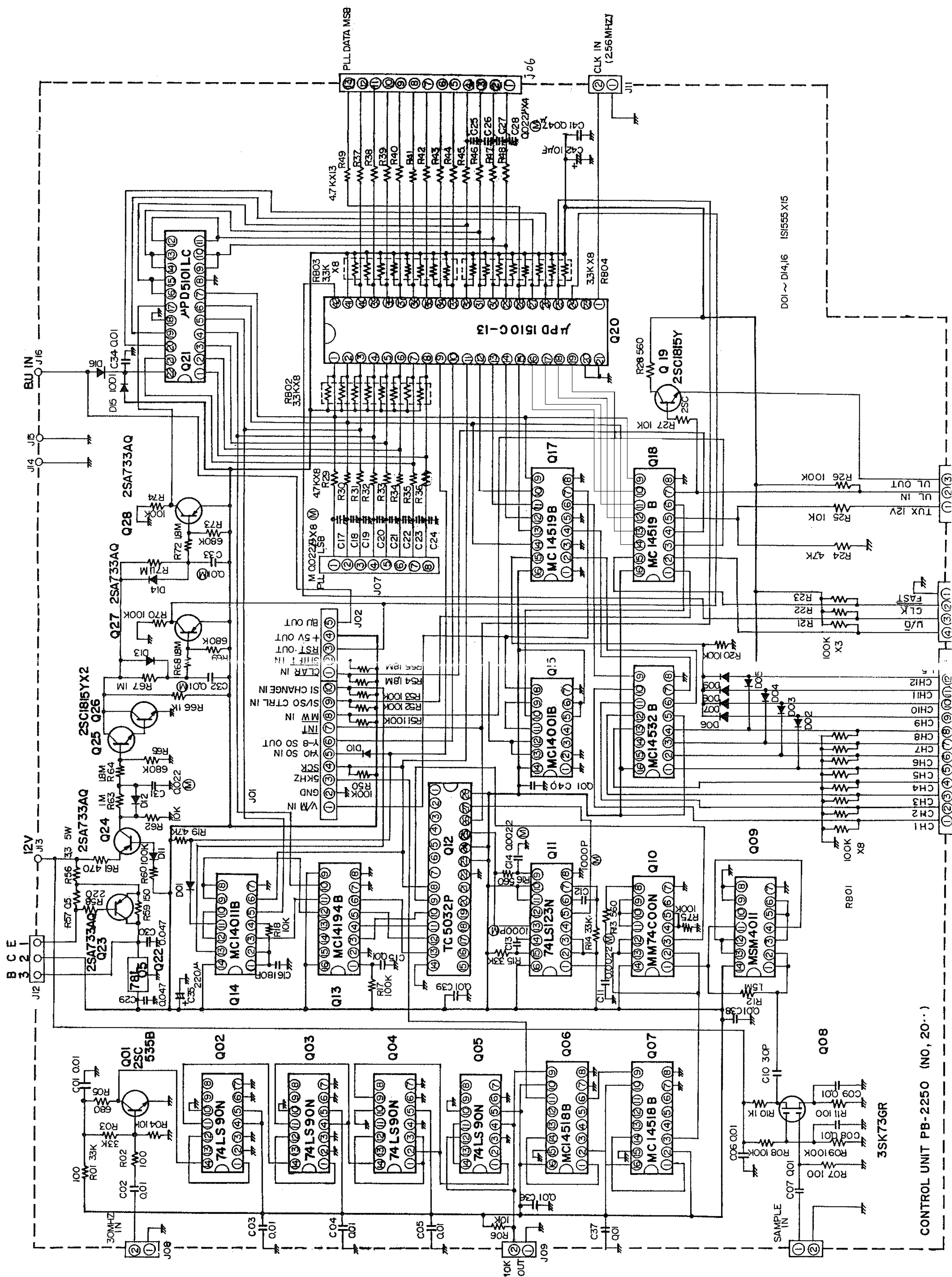


第2図

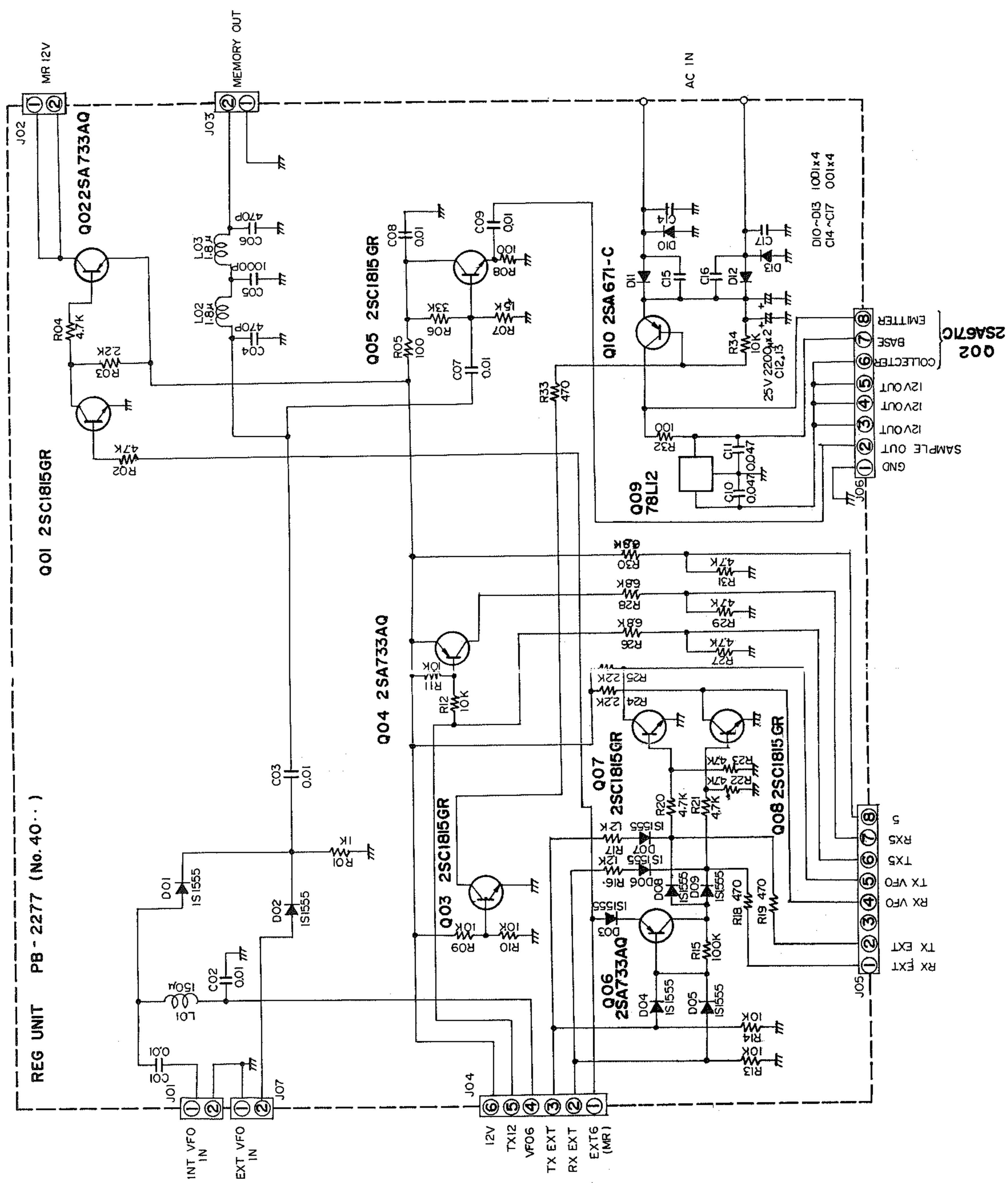
FV-101DM
CIRCUIT DIAGRAM

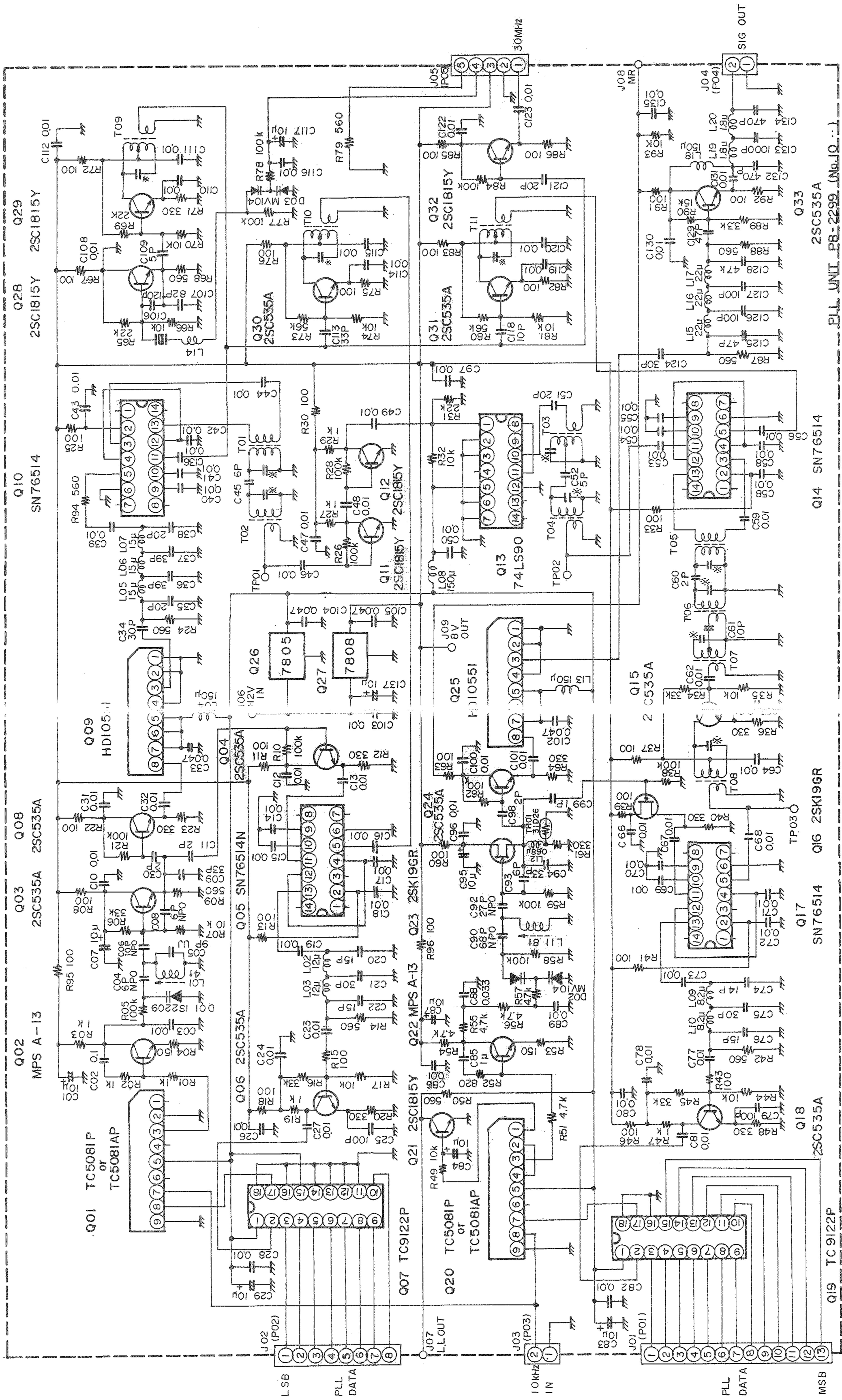


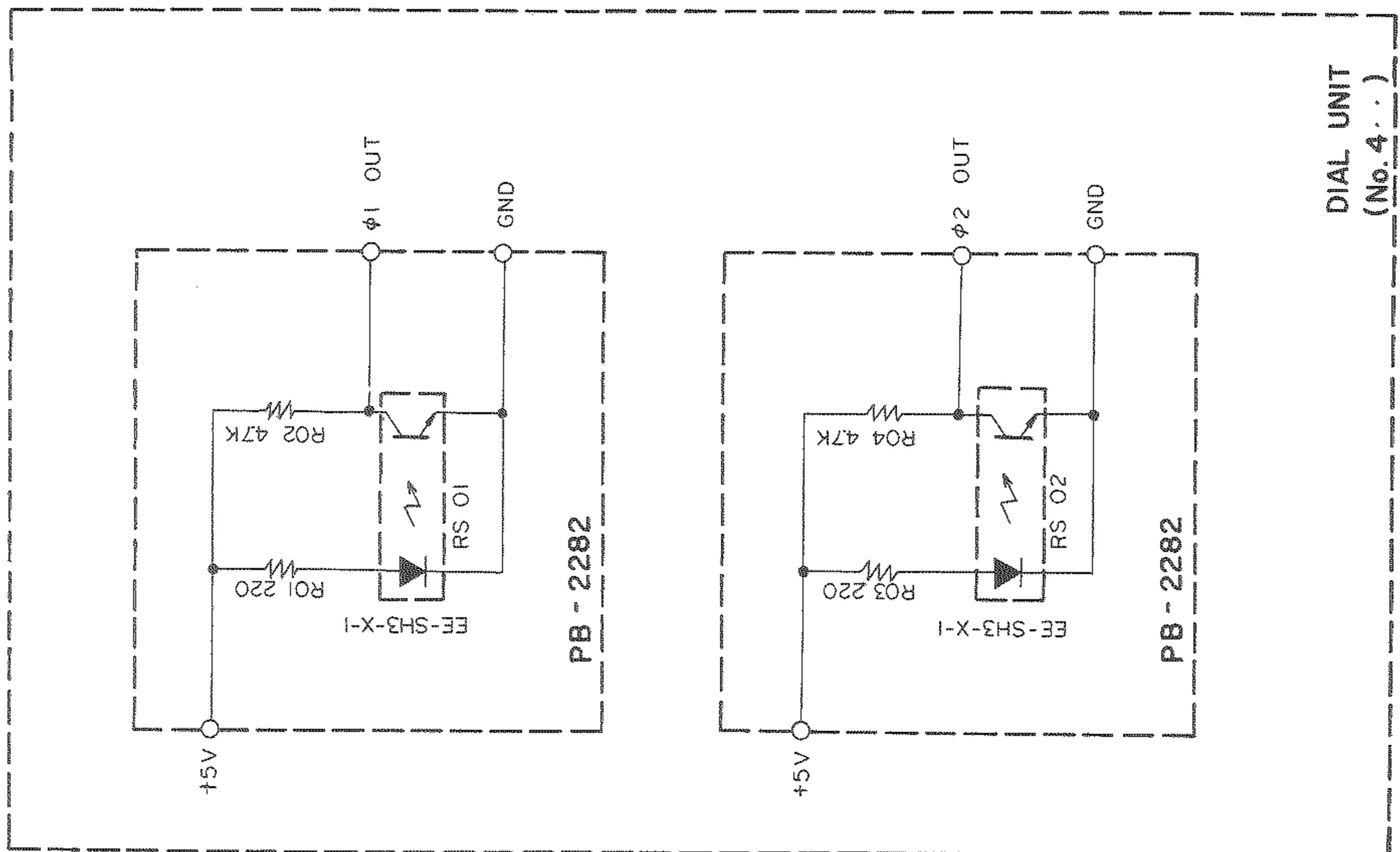
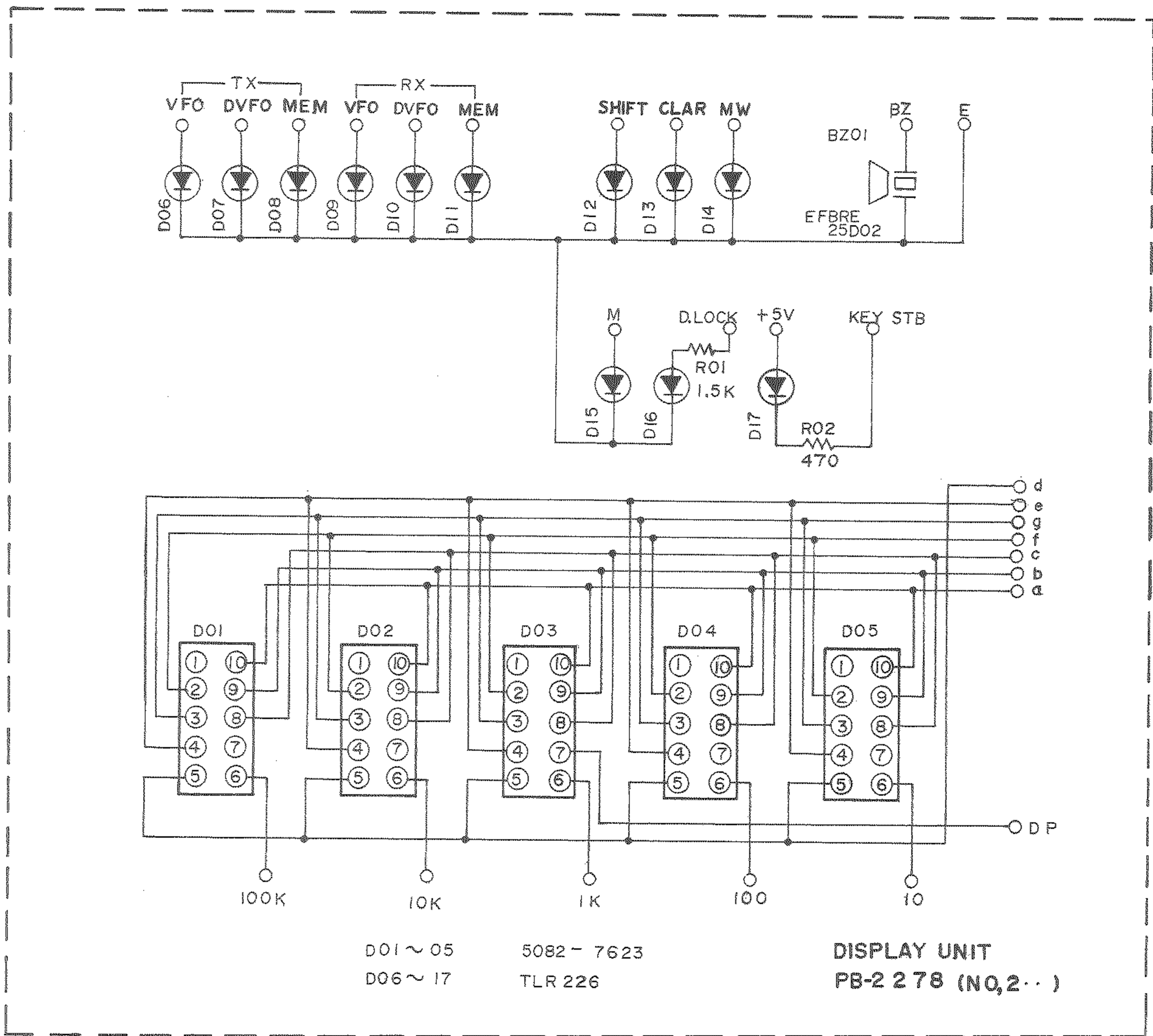




CONTROL UNIT PB-2250 (NO, 20..)







定 格

発振周波数範囲 4.9MHz～5.6MHz, 10Hzステップ
発 振 出 力 130mV(rms) 50Ω負荷時
出力インピーダンス 50Ω 不平衡
周 波 数 安 定 度 ±200Hz 以内(0℃～50℃)
メモリチャンネル 12CH (内 4CH 消去防止回路付)

クラリファイア 受信周波数のみ10Hzステップ
電 源 交流 100V, 50/60Hz
消 費 電 流 22VA
ケ ー ス 寸 法 幅215×高157×奥行327 (mm)
本 体 重 量 約 4.5kg

使用半導体等

IC

SN74LS00N	1個
SN74LS90N	5個
SN74LS123N	2個
SN76514N	4個
MC14001B	2個
MC14011B	5個
MC14013B	1個
MC14016B	1個
MC14042B	1個
MC14077B	1個
MC14093B	1個
MC14194B	1個
MC14518B	2個
MC14519B	2個
MC14532B	1個
TC5032P	1個
TC5081P	2個
TC9122P	2個
μPC7805H	1個
μPC7808H	1個
μPD1510C-13	1個
μPD1510C-22	1個
μPD5101LC	1個
HD10551	2個
MSM4011	1個
MM74C00N	1個
78L05	1個
78L12	1個

FET

2SK19TM GR	2個
3SK73GR	1個

TRANSISTOR

2SA496O	2個
2SA733AQ	17個
2SB856B	3個
2SC535A	10個
2SC535B	1個
2SC1815Y	10個
2SC1815GR	5個
2SC1959Y	5個
MPSA-13	2個

DIODE

1S1555	36個
10D1	5個
1S2209	1個
MV104	2個

LED

5082-7623	5個
TLR226	12個

★使用半導体は同等以上の性能をもつ他のものを使用することがあります。
★デザイン，定格および回路定数は改善のため予告なく変更することがあります。

